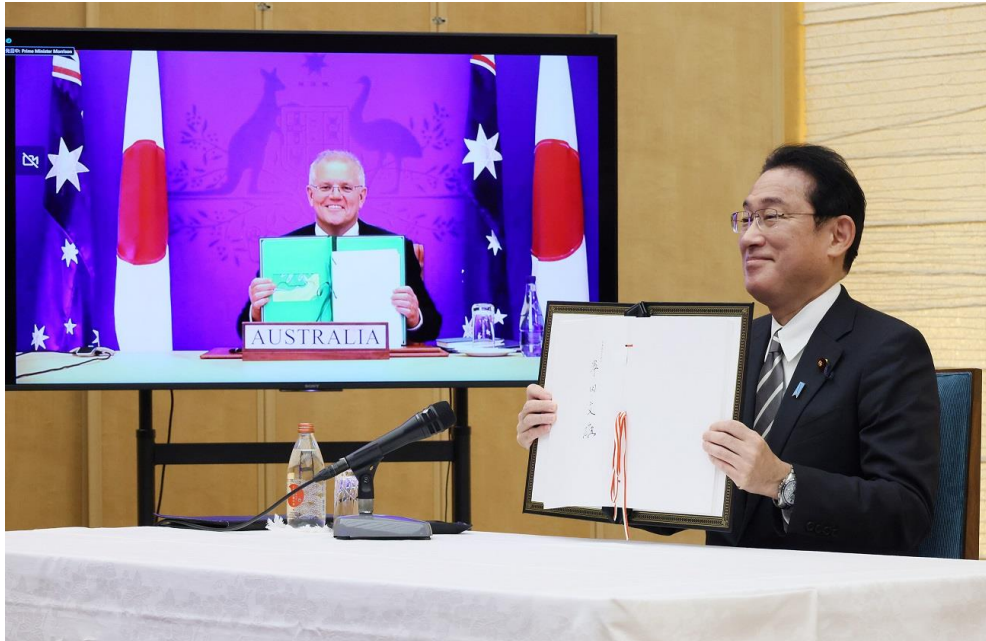


## 南半球便り（その 51）：日豪首脳会談

1 月 7 日



新年おめでとうございます。

昨年に引き続き、日本での豪州の存在感，豪州での日本の存在感の双方を高めるために微力を尽くして参ります。ご支援，ご鞭撻の程，宜しくお願い申し上げます。

### 1. 幻の総理訪豪

今だから打ち明けますが，実はこの年末年始は休みがありませんでした。というのも，岸田総理の豪州訪問を実現すべく，東奔西走していたからです。

もともと日豪両国の間には，一年に一回は首脳レベルの相互訪問を行うという了解があります。前回の首脳訪問は，2020 年 11 月のモリソン首相の訪日。したがって，今度は日本の総理大臣が豪州を訪問する番です。本来であれば昨年を実現されるべきであったのですが，コロナ禍への対応や日本での政権交代もあり，実現できませんでした。そこで，この年始が格好の機会として注目されていたわけです。

### 2. 豪州側の期待と抜群の相性

岸田総理とモリソン首相は，既に二度にわたり首脳会談を行っています。最初は就任後まもなくのオンライン会談。二回目は英国グラスゴーで国連気候変動枠組条約第 26 回締約国会議（COP26）の際に対面で行われました。

会談後，総理は記者団に向かって，「既にテレビ会議において意気投合しておりました

モリソンオーストラリア首相と大変充実した意見交換を行いました」と発言。首脳外交ではしばしば個人的な信頼関係の構築が重要と指摘されますが、まさに抜群の相性であったことがうかがわれます。



英国での日豪首脳会談（2021年11月3日）

それだけに、モリソン首相をはじめとする豪州側も、日本の総理の豪州訪問を待望していました。オーストラリアでは、例年クリスマスから1月26日のオーストラリア・デーまでは夏休み期間。日本のお盆のような状態になります。

にもかかわらず、非常に大切な訪問であるとして、豪州側も休み返上で準備に当たってくれていました。私も、大晦日、元日はキャンベラで執務し、1月3日からはシドニーに乗り込んで受け入れ準備に当たっていました。

### 3. 嗚呼、オミクロン！

ところが、日本でのオミクロンの状況が急変。3日には東京でも沖縄でも新規感染者が数ヶ月ぶりに100名を超える事態に。このような状況の下では総理が日本を離れるわけにはいかず、豪州訪問はキャンセルとなりました。

実現していれば、日本の総理としては就任後初めての二国間訪問（注：昨年の英国グラスゴー訪問は国際会議出席のためでした。）の行き先として豪州を選んだこととなるため、日豪関係に携わる両国関係者の胸は期待に大きく膨らんでいました。

むろん、キャンセルの第一報を豪州側に伝えるのは大使の仕事。辛い役回りです。「十分に理解する。豪州でも山火事対応に追われたことがあったから。」という心温まる言

葉に本当に救われました。

もっと辛かったのは、ほぼ不眠不休で準備に当たってくれていた同僚（キャンベラの大使館、シドニー・メルボルン・ブリスベン総領事館の本官・現地職員の混成部隊でした。）に対して、「撃ち方止め」の指示を下したときです。総理一行の宿舎として予定していたシャングリラ・ホテルの会議室で通知した際、何人かの目がうっすらと光るのを見て、いたたまれない気持ちになりました。

#### 4. オンライン会談

でも、オミクロン如きにかき消されるような日豪関係ではありません。総理訪豪中止の報を聞いた豪州の某元首相が「あのウイルス野郎」(bloody virus) と呼び捨てた気概は、日豪両国関係者に相通じるものです。

そこで仕切り直し。6日にはオンラインで首脳会談が実施され、豪州側の配慮で私もキャンベラの議事堂オフィスでモリソン首相と同席させていただきました。会談後には共同声明が発表されました【その内容は、[こちら](#)をご覧ください。】

#### 5. 画期的な円滑化協定（RAA）署名

それだけにとどまりません。2014 年以来交渉を重ねてきた RAA がまとまり、両首脳が署名することが出来たのです。

日本の自衛隊、豪州国防軍の間では既に共同訓練・演習が行われてきていますが、この協定で法的枠組みが整備され、互いの国への入国、装備の持ち込み、事件・事故の際の裁判管轄権等が明確に規定されたのです。日本にとっては、初めての RAA です。【その概要は[こちら](#)をご覧ください。】

南シナ海、東シナ海をはじめとしてインド太平洋の安全保障環境が厳しさを増す中、日豪両国の防衛当局の協力が質量共に活発化し、ひいては地域における抑止力を強化することが強く期待されます。両首脳が自ら署名した事実が、この協定の歴史的意義を物語っています。



(上) 共同演習「タリスマン・セーバー」で海岸に上陸する陸上自衛隊員 (2021 年) (出典：陸上自衛隊)

(左) 共同訓練「日豪トライデント」に参加する海上自衛隊護衛艦「いなづま」と豪海軍フリゲート艦「ワラマンガ」(2021 年) (出典：豪国防省)

## 6. 捲土重来

オミクロンのために今回は実現できなかった総理訪豪ですが、近いうちに是非実現されるよう、出先の大使館としても努力を重ねたいと念じております。

「対面での会談に勝るものなし」というのは、コロナ禍の制約を経てきた経験からも実感として日豪が共有しているからです。

山上信吾